

2019年度第8回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「筑波山地域ジオパークを訪ねる」を実施しました。

日 時：2019年12月7日（土曜日）午前9時から午後3時30分まで

場 所：かすみがうら市雪入ふれあいの里公園，石岡市吉生西光院

参加者：31名

結 果：今回は雨での観察会になりました。雪入ふれあいの里に到着すると、まず駐車場の横に転がっている変成岩について、講師をお願いした筑波大学の黒澤正紀准教授より解説がありました。変成岩は泥や砂が堆積してできた堆積岩がマグマの熱で変化したものであること、岩にあるしわは海底地すべりしたときにできたものがあることなどが話されました。参加者はマグマと聞いてすごく熱い印象を受け、岩は溶けるのではと思った人がいましたが、先生からマグマの熱が伝わっただけで、700℃ぐらいの温度で変成したことが話されました。

山道を上がりながら、途中にある転石や露頭などを観察しました。黒い小さな点々が付いている岩がありました。この点々は小さな黒雲母の塊であることが話されました。花崗岩を観察し、白っぽい長石に、白くきれいな石英や、薄くはがれる白雲母、加熱すると電気を帯びるので電気石と名が付いた黒い鉱物などが含まれていることを知りました。参加者の皆さんは各観察場所で交替して熱心に観察をしていました。子供たちは道に落ちている白雲母の大きいかけらを拾って、お土産にしていました。

ネイチャーセンターでは先生が持参した色々な岩石のサンプルについて解説していただきました。中にはゆで卵を割ったような、球状花崗岩を切ったサンプルもありました。特に青色に光る岩石には興味を持った人もいたようです。

午後はバスで峰寺山の西光院へ向かいました。西光院の人に説明をしていただき、立木観音と本堂を見学しました。本堂の裏を見ると大きな岩に穴の開いたお堂がかかっているのが見えました。この大きな岩に本尊の馬頭観音が彫られていて、岩がお堂に入っているのです。急な崖にあるため、お堂は京都の清水寺のように高い足場の上に立っています。高い所にあるので、お堂に上がると八郷盆地がよく見渡せますが、雨のために今一つの眺めでした。また、この寺は岩が光っているのが里から見えて、ここに建立されたことなども聞きました。茨城県の天然記念物である球状花崗岩があるのですが、雨のため見学は中止にして、里で二十三夜尊の球状花崗岩を見ることにして、里に下りました。

球状花崗岩の二十三夜尊は祠に入っているのが暗く、懐中電灯で照らすと、花崗岩の中に球状の黒っぽい石が入っているのがよくわかりました。交替で覗きこみ、中には2回も覗いた人もいました。

今回の観察会では講師のわかり易い説明で、参加者は花崗岩にも、いろいろなものがあることを知ったようで、中には、ほんのわずかではありますがウランを含んだものがあることには驚いていました。今回の観察会で、多くの人が花崗岩を身近に感じられるようになったようです。

(腰塚昭温)

次に観察会の様子を紹介します。



西光院



変成岩にできた褶曲



二十三夜尊の球状花崗岩



観察した花崗岩